



2024

国立大学法人 琉球大学病院

看護部概要



完成イメージ図



「知識」「技術」「思いやりの心」





に基づいた安心・安全な看護の提供



新人歓迎運動会（キャタピラー）



新人歓迎運動会（綱引き）



新人歓迎運動会（玉入れ）

目次 Contents

看護部長のあいさつ・看護部理念・基本方針	3
看護部の組織	4
専門・認定看護師の看護活動	5-6
看護体制・勤務体制・看護方式	7
キャリア形成を支える教育体制	8
看護師育成プログラム	9-10
2024年度 現任教育 -新人看護師育成プログラム(抜粋)-	11
2024年度 現任教育 -静脈注射教育プログラム-	12
院内研修 -レベルⅠ教育-	13
院内研修 -レベルⅡ教育-	14
先輩ナースからのエール	15
働き続けられる職場環境	16
部署紹介	17-22

看護部長のあいさつ

「専門的知識」に基づいた「看護実践」を「思いやりの心」で提供する



看護部長・副病院長
(認定看護管理者)
眞榮城 智子

本院は、沖縄県内唯一の大学病院かつ特定機能病院として、高度で質の高い医療の提供と医療人の育成を使命としています。看護部では「知識・技術・思いやりの心」の3つの輪をシンボルマークとし、「専門的知識に基づいた看護実践を思いやりの心で提供する」ことを理念に掲げ、日々進歩する医療に対応した専門性の高い看護実践を目指しています。

昭和59年に那覇市与儀より現西原町へ移転し40年が経ち、令和7年1月には待望の西普天間への移転を控えております。新病院では集中治療室拡大や救急救命センター拡充に取り組むことが予定されており、「高度で質の高い医療の提供」という役割発揮のためには、看護師の高い臨床判断力が求められるものと考えています。

それに向け現任教育としては、シミュレーションによるフィジカルアセスメント研修や重症ケア領域研修の充実を予定しています。特定行為研修修了看護師の活動推進により、看護師による特定行為実践件数も増え、タイムリーな看護介入が展開されてきました。特定行為研修を受講することで、より専門的な知識を深めることができ、高い臨床判断力と実践への自信にもつながっていると考えています。また、専門領域における臨床判断力向上を目的に、領域別院内 Expert Nurse 認定制度（創傷ケア、ストマケア、摂食・嚥下障害看護、感染管理、がん看護）へも注力し、現場での専門性発揮を推進しています。

新人教育体制では、教育担当副師長、新人教育サポーターが中心となり、パートナーシップによるスタッフ全員の新人教育への参画支援や集合研修での学びが現場の実践に活かせるように OJT を強化しています。2023年度より開始した院内留学研修は、他部署を経験することで経験の幅が広がった、看護実践の根拠について考えるようになったなど、看護の言語化につながったとの報告が挙がっています。大切にしている看護を言語化し伝えることで、互いの成長を促し、看護師としてのやりがい感につなげていきたいと考えています。

目標管理においては2021年度からBSCを取り入れ、看護の可視化の充実を図っています。2023年度は、がん患者だけでなく、非がん患者のつらさにも焦点を当て、つらさの緩和に向けた取り組みを実践しています。また、スキンケアの実践や摂食・嚥下評価による早期介入など、各リンクナースの活躍によるケアの質向上を感じています。

新興感染症は収まり始めていますが、世界情勢の変化が著しいVUCA（予測が困難な状態）時代であることは変わりありません。そのような時代であっても、最善を考え、柔軟な考えで想像し、できることを行動する、互いを信じ助け合うことで強くしなやかな看護部となると信じ、共に歩んでいきたいと思えます。

看護部理念

専門的知識に基づいた看護実践を思いやりの心で提供する。

看護部の基本方針

1. 健康のあらゆる段階に対する全人的看護の提供
2. 高度先進医療における看護技術の開発並びに患者のQOLへの支援
3. 患者中心の医療提供のための他部門との協働および地域との連携
4. 看護の質向上を目指した教育・研究の実践と業務改善
5. 働きがいのある職場環境の改善とワークライフバランスの推進



看護部の組織

看護部長

副看護部長 (総務)

副看護部長 (業務)

副看護部長 (教育)

教育担当部長

教育担当副部長

副看護部長 (経営)

副看護部長 (安全)

日直・当直看護部長

- 看護部から看護師を配置
- 自己血採血室
 - 治験管理室
 - 病後児保育室
 - 総合案内
 - シミュレーションセンター
 - キャリア形成支援センター

病棟部門

看護師長 — 副看護師長 — 看護師 — 看護助手
(1階～10階病棟)

外来部門

看護師長 — 副看護師長 — 看護師 — 看護助手
(21診療科、外来化学療法室、高気圧治療部)

中央診療部門

手術部 看護師長 — 副看護師長 — 看護師 — 看護助手

集中治療部 看護師長 — 副看護師長 — 看護師 — 看護助手

救急部 看護師長 — 副看護師長 — 看護師

医療福祉支援センター 看護師長 — 副看護師長 — 看護師

材料部 看護師長 — 看護師

光学医療診療部 副看護師長 — 看護師 — 看護助手

血液浄化療法部 看護師長 — 副看護師長 — 看護師 — 看護助手

緩和ケアセンター 副看護師長 — 専門看護師・認定看護師

安全管理対策室 副看護部長 — 看護師長

褥瘡対策室 副看護師長 — 認定看護師

感染対策室 副看護師長 — 認定看護師



副看護部長
(感染管理認定看護師)
富島 美幸



副看護部長
伊良皆 美香



副看護部長
(認定看護管理者)
饒平名 かおり



副看護部長
小渡 清江



副看護部長
吉永 成子

看護師数

2023年4月1日現在

看護部長	副看護部長	看護師長	副看護師長	看護師	看護師 (非常勤)	再雇用 (30時間)	看護師合計	看護助手
1人	5人	26人	64人	522人	10人	11人	639人	69人

専門・認定看護師数

認定看護管理者	3人
専門看護師	がん看護 4人
	急性・重症患者看護 1人
	慢性疾患看護 1人
認定看護師	がん化学療法看護 3人
	がん放射線療法看護 2人
	緩和ケア 2人
	糖尿病看護 1人

認定看護師	感染管理	6人	
	皮膚・排泄ケア	5人	
	慢性心不全看護	2人	
	摂食・嚥下障害看護	2人	
	認知症看護	2人	
	救急看護	1人	
	集中ケア	3人	
	新生児集中ケア	1人	
	認定看護師 計	12領域	30人

領域別資格取得者数

特定行為研修修了看護師	37人
糖尿病療養指導士	10人
呼吸療法認定士	20人
心臓リハビリテーション指導士	3人
HIV コーディネーター	2人
NST 専門療法士	4人
NST 専門療法士実地訓練修了者	136人
第一種滅菌技師認定	2人
認定排泄ケア専門員	2人
造血幹細胞移植コーディネーター	1人

リンパ浮腫療法士	2人
自己血輸血看護師	2人
臨床輸血看護師	1人
消化器内視鏡技師	3人
ACLS・ICLS	21人
NCPR	14人
アドバンス助産師 (レベルⅢ)	7人
人工心臓管理技術認定士	3人
透析技術認定士	2人
インターベンションエキスパートナース	2人

専門・認定看護師の看護活動



集中治療部
看護師長
具志 香奈絵

急性・重症患者看護専門看護師

緊急度や重症度の高い患者に対して集中的な看護を提供し、患者本人とその家族の支援、医療スタッフ間の調整などを行い、最善の医療が提供されるように支援しています。臨床判断能力の育成支援として、病棟看護師と重症化リスクの高い患者の病態把握、看護行為を検討しています。

また、呼吸ケアチームの一員として病棟ラウンドを行い、安全に呼吸ケアの管理ができるよう助言を行っています。



9階東病棟
看護師
玉城 雄也

慢性疾患看護 専門看護師

慢性疾患の中でも循環器看護のスペシャリティを活かして、主に心血管疾患患者を対象とした慢性疾患ケアの充実に取り組んでいます。心血管疾患は、長期的な経過を辿り、憎悪と寛解を繰り返しながら進行していくため、患者さんの病期や予後、QOLなどを考慮して、患者さん・家族が望む療養生活が実現できるように支援しています。



医療情報
看護師長
多和田 慎子



緩和ケアセンター
看護師
砂川 華



緩和ケアセンター
看護師
狩俣 勇斗



8階西病棟
看護師
旗武 恭兵

がん看護専門看護師

病棟・外来を問わず横断的に活動しながら、がん患者さん・家族、医療スタッフからの相談を受けています。患者さんが、がんと闘いながら孤立せず、自分らしく生きていくことができるように多職種との連携を通して支援をしています。特に入院患者の「つらさのアセスメント」の実施とインフォームドコンセントへの同席を強化し、患者さんの意思決定支援を行っています。



外来化学療法室
副看護師長
里見 雄次



副看護師長
難波 綾乃



7階西病棟
看護師
諸見里 真

がん化学 療法看護 認定看護師

がん化学療法を受ける患者さん・ご家族の身体的・精神的・社会的状況を包括的に理解し、安全に安心して治療が続けられるよう専門性の高い看護を実践しています。また、がん化学療法看護に関する院内研修を行っています。



1階西病棟
副看護師長
西銘 千美



放射線治療室
看護師
宮城 智江

がん放射線療法看護 認定看護師

放射線治療に対する不安や副作用による苦痛を少しでも軽減できるよう患者さん、家族へ支援を行っています。また、治療が順調に実施されるだけでなく生活の質が低下しないよう、医師や病棟看護師、他部門との調整役も担っています。



緩和ケアセンター
看護師
棚原 陽子



9階西病棟
看護師
中村 翼

緩和ケア 認定看護師

患者さんの痛みやリンパ浮腫などの身体および精神的苦痛の緩和、家族のつらさの軽減など早い時期から介入し、患者さんが安心して自分らしい生活ができるように心がけています。また、患者さんが安心して病気と向きあえる体制作りにも力を入れています。



安全管理対策室
看護師長
阿嘉 直美



7階東病棟
看護師長
玉城 賢志
(特定行為看護師)

慢性心不全看護 認定看護師

入退院を繰り返す患者さんに対し、症状コントロールに必要な生活指導と服薬指導を行っています。また、心臓リハビリテーション指導士と連携し、在宅療養が継続できるようにサポートをしています。病棟スタッフへ実践指導や勉強会などの教育支援を行っています。



9階東病棟
看護師長
上原 泉



管理室
副看護師長
外間 太樹
(特定行為看護師)



集中治療部
看護師
具志堅 一希

集中ケア認定看護師

重症患者さんの身体的・精神的苦痛の緩和を図り、早期回復への支援を行っています。特殊な環境下にある患者さんが回復と自己コントロール感を実感できる看護を目指しています。また、患者さん・ご家族とゴールを共有し、多職種と互いに専門性を発揮し協働して関わっています。



管理室
副看護部長
富島 美幸



感染対策室
副看護師長
眞榮城 咲子
(特定行為看護師)



集中治療部
副看護師長
伊徳 清貴



感染対策室
看護師
渡慶次 道太



感染対策室
看護師
鈴木 聡美



6階西病棟
看護師
菅 力也

感染管理認定看護師

患者さんや医療スタッフの感染予防と対策を行うため、組織横断的に活動しています。手指衛生の推進や職業感染予防、教育活動などに携わっています。

特に力を入れているのが医療関連感染サーベイランスの実践であり、医療関連感染予防ケアの質の向上を目指して活動しています。



キャリア形成支援センター
看護師長
平良 智恵美
(特定行為看護師)



外来
副看護師長
平 洋子



褥瘡対策室
副看護師長
仲宗根 亜由子



10階西病棟
副看護師長
新崎 真由美



褥瘡対策室
看護師
翁長 浩一郎
(特定行為看護師)

皮膚・排泄ケア認定看護師

外来や病棟で患者さんにケアを行う一方、スタッフからの相談対応、定期的な勉強会の開催、褥瘡対策チーム回診等を通じてスタッフ教育にも携わっています。患者さんの快適な日常生活のサポートを行えるよう知識・技術の向上、ケアの開発に取り組んでいます。



医療福祉支援センター
副看護師長
神村 美奈子



10階東病棟
副看護師長
下地 あずさ

摂食・嚥下障害 看護認定看護師

摂食嚥下障害のある患者さんのケアに取り組んでいます。口腔ケアや食事介助を通じて患者さんの生命力の復活と疾病からの回復を図っています。他部署からのコンサルトなどにも積極的に介入し、口腔ケアや摂食ケアに必要な知識とスキルをスタッフへ伝え、ケアの向上を目指しています。



9階東病棟
副看護師長
知念 さゆり



看護師
知花 紫維菜

認知症看護認定看護師

認知症者の意思を尊重することを目指し、認知症をもちながらも安心して治療が受けられるよう支援しています。

また、退院後もその人らしく生活できるよう、患者本人とともに家族もサポートしています。看護実践を通して、認知症者へのケアに必要な知識とスキルをスタッフへ伝え、病院全体として安心できる看護が提供できることを目指しています。

また、退院後もその人らしく生活できるよう、患者本人とともに家族もサポートしています。看護実践を通して、認知症者へのケアに必要な知識とスキルをスタッフへ伝え、病院全体として安心できる看護が提供できることを目指しています。

また、退院後もその人らしく生活できるよう、患者本人とともに家族もサポートしています。看護実践を通して、認知症者へのケアに必要な知識とスキルをスタッフへ伝え、病院全体として安心できる看護が提供できることを目指しています。



集中治療部
看護師
又吉 桃子
(特定行為看護師)

糖尿病看護認定看護師

糖尿病とともに生きる人がその人らしい生活を送ることができるように、共に考え、目標をもってサポートします。そのため、他部署から相談を受けられる体制づくりを目指しています。

周手術期の血糖マネジメントや糖尿病ケトアシドーシスの予防に対するデバイスの導入やスタッフ指導に取り組んでいます。



救急部
副看護師長
又吉 努

救急看護 認定看護師

救急看護は、急な病気やケガなどの緊急度・重症度を判断するトリアージをはじめ、危機的状況にある患者さんへの救命処置や精神的ケアなど、その役割は多岐にわたります。現場で実践モデルとして活動を行うとともに院内研修で技術指導を行っています。



NICU
副看護師長
与那覇 和美

新生児集中ケア 認定看護師

急性期にあるハイリスク新生児の身体的ケア、および神経行動学的発達と親子関係形成の支援を行っています。新生児と家族を中心とした医療・看護の提供を目指して、両親に学習会を開催、新生児の生きる力を家族、スタッフで支援する体制づくりを行っています。

リンパ浮腫ケア外来

目的

- ・セルフリンパドレナージの指導
- ・セルフスキンケアの指導
- ・運動療法指導
- ・圧迫療法の見直しについての相談
- ・精神的サポート

【対応看護師】専任看護師1名
(緩和ケア認定看護師)

【開設日】

形成外科：火・木
9:00～16:00

婦人科：月・水・金
9:00～16:00

【開設場所】診療科外来



ストーマ(WOC)外来

目的

- ・術前、外来でストーマに関する情報の提供
- ・入院中、患者・部署スタッフへセルフケアに向けたサポート
- ・退院後、社会復帰に向けた長期的なサポート

【対応看護師】専従看護師1名・専任看護師1名(皮膚・排泄ケア認定看護師)

【開設日】消化器：月・水・木 9:00～16:00 泌尿器：月・火・金 9:00～16:00

【開設場所】診療科外来



Wound
褥瘡などの創傷ケア
Ostomy
ストーマケア
Continence
失禁ケア

看護体制・勤務体制・看護方式

看護体制

病床数 600床	一般病棟看護配置 7:1	急性期看護補助体制加算 25:1
	精神科病棟看護配置 13:1	看護職員夜間配置加算 12:1

勤務体制

2交代制(全部署) 日勤(8:00~16:45) 長日勤(8:00~21:00) 夜勤(20:00~9:00)

看護方式

パートナーシップ・ナーシング・システム < PNS >

パートナーシップ・ナーシング・システム(以下、PNS)は、安心・安全な看護の提供方式として福井大学医学部附属病院で開発され、当院でも2013年から全病棟で導入しています。

看護師が安全で質の高い看護を共に提供することを目的とし、**2人の看護師が良きパートナー**として、**対等な立場で、互いの特性を活かし、相互に補助し協力し合う看護提供方式**です。

2人の看護師は、毎日の看護ケアをはじめ、委員会活動、病棟内の係りの仕事に至るまで、1年を通じたパートナーとして、その**成果と責任を共有**します。「責任」と「やりがい」を2人で分かち合う新たな看護方式で、さらに右図のように補完の4重構造をもってサポートする仕組みです。



ペアで本日の作戦会議



ベットサイドでのケアと記録



リシャッフルによる業務調整

パートナーシップ・マインド

Mind 心・精神・意識

他者に依存するのではなく、一人のプロフェッショナルとして自らの頭で考え、自らを助く**心の持ち様**である。

パートナーシップ 「共に何事かを成す仲間との信頼に基づく対等な関係」

パートナーシップの3つの心 「自立・自助の心」「与える心」「複眼の心」



パートナーシップ・ナーシング・システム < PNS > の特徴

- ◆ 勤務の時は必ず受け持ち患者を担当することで、受け持ち看護師としての役割を發揮できる。
- ◆ ペアでベットサイドに行くことで、先輩看護師の経験知や暗黙知に学ぶ機会となる(OJT効果)。
- ◆ 新人看護師は、先輩看護師とペアになることで、安心・安全な看護の提供に繋がる。
- ◆ 先輩看護師も、新人の丁寧な患者対応や気づき・フレッシュマンとしての感性に学ぶ機会となる。
- ◆ 個々の看護観やシャドーワークの共有が可能となる(看護観の醸成と看護技術の伝承)。
- ◆ 看護記録をリアルタイムに記載することで、医療チーム間で迅速な情報共有が可能となる。
- ◆ 勤務の定時終了で、超過勤務縮減とワークライフバランスの推進、離職防止に繋がる。

キャリア形成を支える教育体制

充実した教育体制と研修プログラムを用いて、スタッフのキャリア形成を支援しています。

ポイント1 クリニカル・ラダーと新人教育サポーター制

新人教育

パートナーシップによる指導体制を強化した新人教育サポーター制を導入しています。新人教育サポーターが新人教育の中心的役割を担い、全スタッフが計画的・段階的に指導する教育体制のもと、新人が基本的な看護技術を確実に習得できるよう支援しています。集合研修においては、実践に生かされるように演習やグループワークに力を入れています。また、フォローアップ研修等で交流の場を設け、新人同士の仲間づくりを支援しています。

現任教育

看護職員一人ひとりの持つ能力を活用し、患者中心の質の高い看護を提供することを目的として、クリニカル・ラダーによる人材育成を行っています。集合教育においては、認定看護師による、フィジカルアセスメント研修、摂食嚥下研修等に力を入れています。また、専門職として主体的に能力開発を目指す人材を組織的に支援しています。

ポイント2 シミュレーション教育

病院敷地内にクリニカルシミュレーションセンターを併設しており、臨床と同じ環境で看護技術等が習得できます。少人数のグループ毎に指導者がついて、きめ細かな指導を行っています。

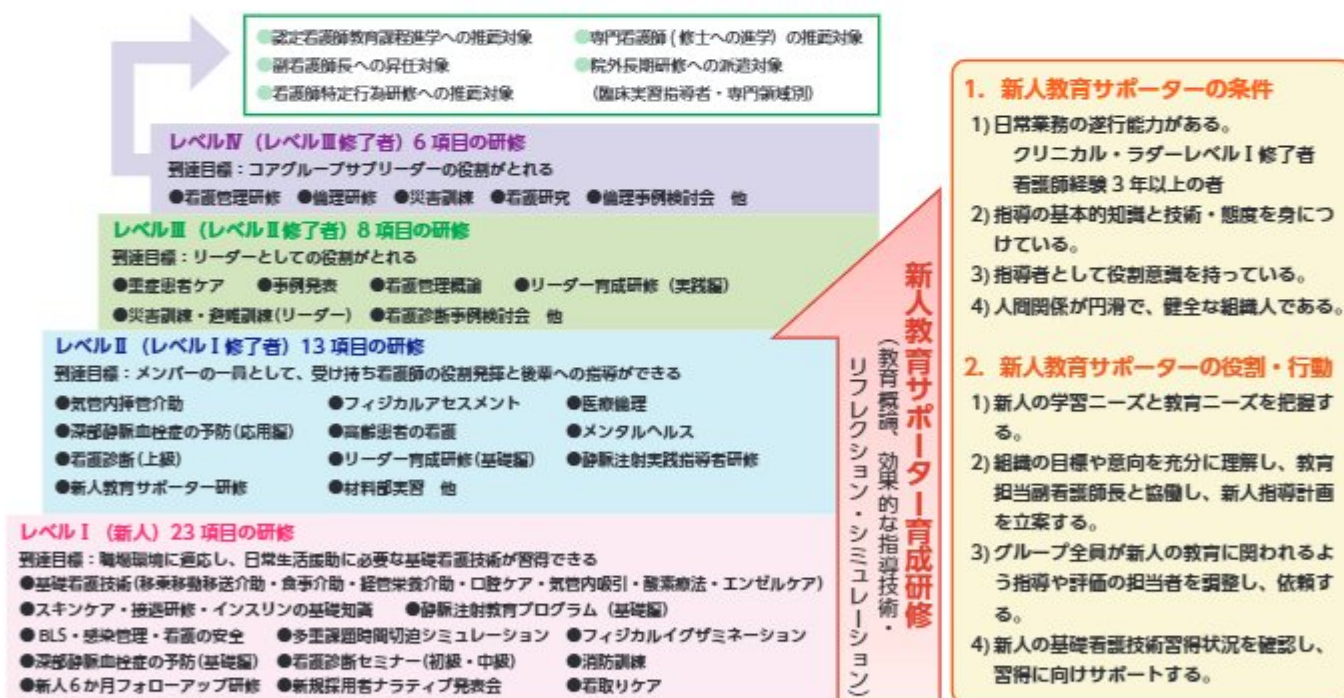
◎タスクトレーニングの実施

注射や採血などの技術トレーニングです。どのような条件下でも技術が安全・正確に実施できるまで、本院の看護手順書に沿って、チェックリストを使用し反復して練習します。

◎シチュエーション・ベースド・トレーニングの実施

急変時対応などについて、状況に基づいたシミュレーション研修を行います。実際の臨床の場面を設定（シナリオ）し、思考過程のトレーニングを行います。チーム連携の強化（観察と報告）や患者さんへの説明、フィジカルアセスメントを学びます。

クリニカル・ラダーと新人教育



ポイント3 院内認定制度 Ryukyu Expert Nurse (REN)

当院では、領域毎の専門性を高めるために院内認定制度を導入しています。現在の認定分野は、ストーマケア、創傷ケア、感染管理、がん看護、摂食・嚥下障害看護の5分野で院内認定を実施しています。院内認定取得者には、自部署で専門領域の実践・相談・教育を行い、看護現場における看護ケアの広がりや質の向上に貢献しています。

ポイント4 専門看護師・認定看護師によるサポート体制

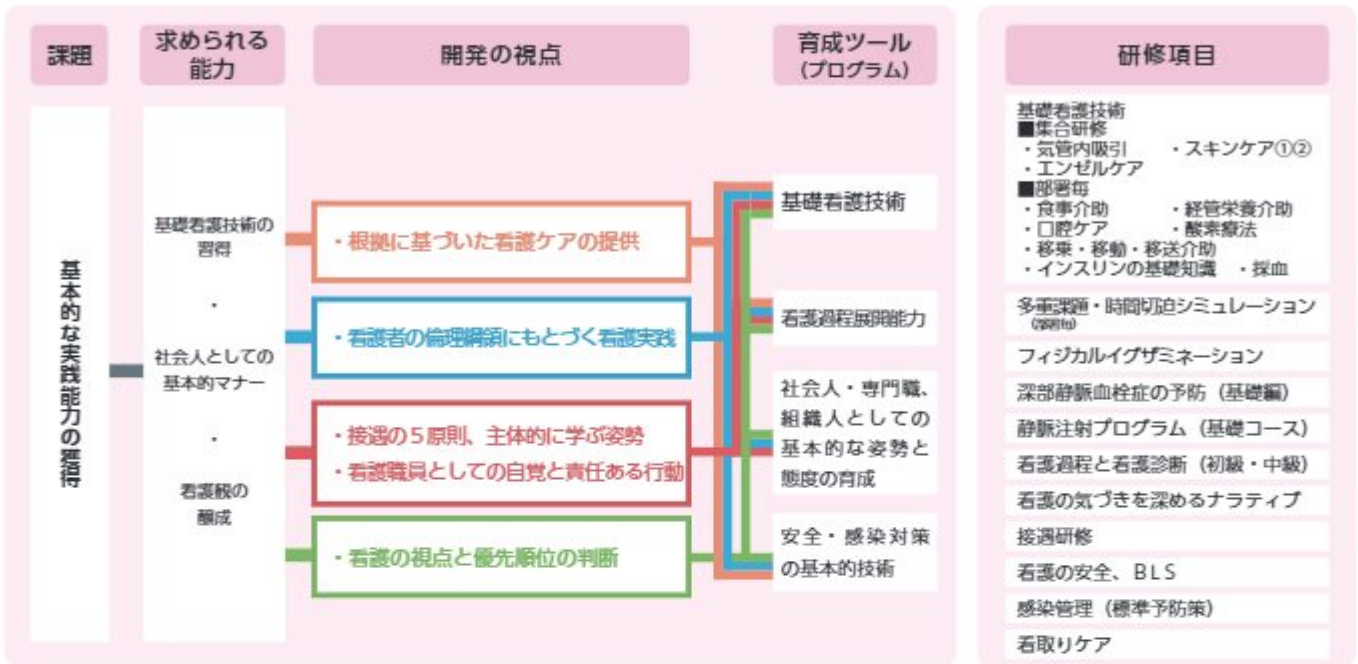
看護ケアの充実と質向上を目指し、スタッフ指導や専門領域の院内研修を担当し実践力向上をサポートしています。専門・認定看護師資格取得希望者に対しては、キャリア相談を行っています。

看護師育成プログラム

新人看護師育成プログラム レベルⅠ

新人

新人看護師は、根拠に基づいた看護技術を習得し、基本的な臨床実践能力の獲得と看護観の醸成につなげることが求められる。そこで、社会人としての基本的マナーを身に付け、責任ある行動がとれる人材を育成する。



一人前看護師育成プログラム レベルⅡ

メンバー

一人前看護師は、メンバーの一員として受け持ち看護師の役割を發揮し、専門職として看護独自の視点で、考える力と臨床判断力を身につけることが求められる。そこで、臨床判断による看護実践ができる人材を育成する。また、後輩への技術指導、メンタル面でのサポートができる人材を育成する。



中堅看護師育成プログラム レベルⅢ

リーダー

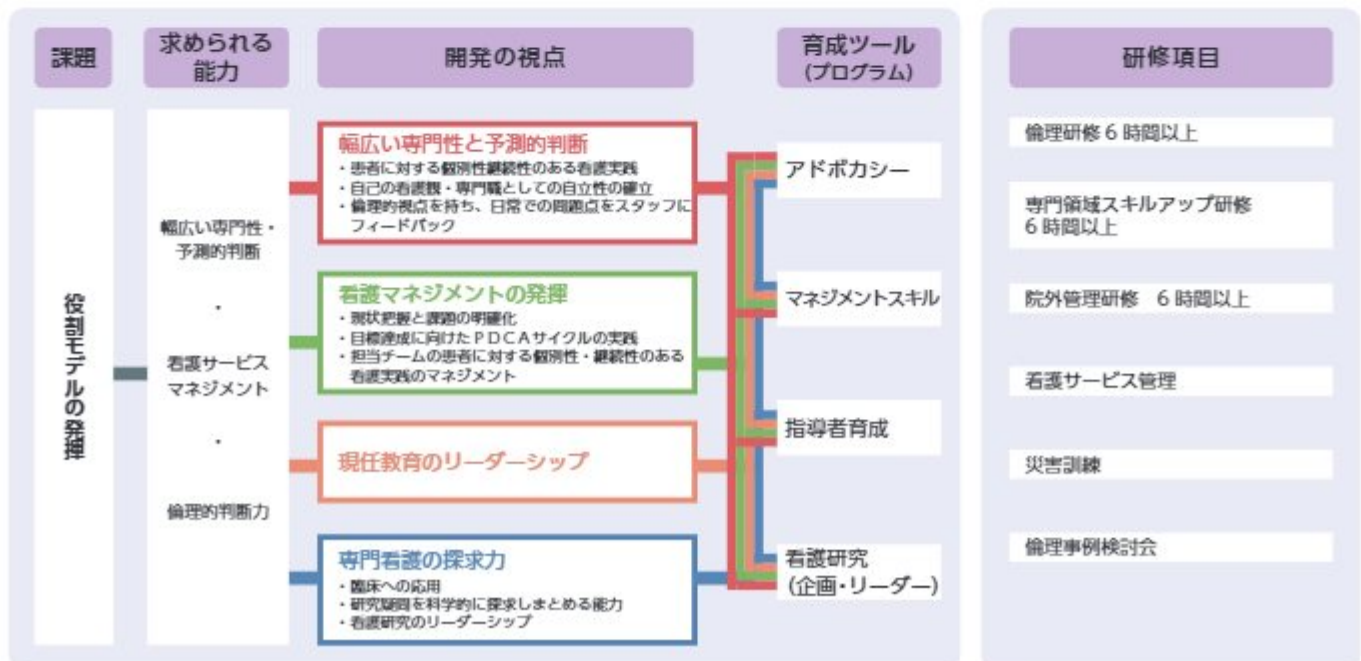
中堅看護師は、患者ニーズとスタッフの能力を考慮し、安心安全な看護ケアの提供ができるようリーダーとしての役割が求められる。そこで、部署における専門的看護実践と多職種連携を図り、チーム医療におけるリーダーシップが発揮できる人材を育成する。



達人看護師育成プログラム レベルⅣ

コアグループサブリーダー

達人看護師は、組織的な教育・研究活動を主体的に実践し部署目標に貢献できる。また、幅広い視野で予測的判断を持ち看護実践するという役割が求められる。そこで、専門領域における看護実践の役割モデルが発揮できる人材を育成する。



2024年度 現任教育 - 新人看護師育成プログラム (抜粋) -

目的 新人看護師が、社会人としてのマナーや看護観の醸成、根拠に基づいた看護技術が習得できるように支援する。

新人看護師の年間スケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
中央オリエンテーション 接遇研修 新人歓迎会	基礎看護技術集合研修 安全・感染管理集合研修 ・BLS ・スキンケア ・気管内吸引 ・静脈注射	基礎看護技術評価(三カ月) 深部静脈血栓症の予防(基礎編)	消防器・消火栓の取り扱い リフレッシュ休暇 避難誘導訓練(全看護職員) フィジカルイグザミネーション研修		六カ月フォローアップ研修 基礎看護技術評価(六カ月)	災害訓練 看取りケア・エンゼルケア				基礎看護技術評価(一年) 新規入職者ナラティブ発表会 クリニカル・リーダー申請	華申祝賀会

<病棟での動き>

- ★ 4月 : 基礎看護技術の部署内オリエンテーション
- ★ 4～5月 : 個人目標面談
- ★ 5～6月 : 夜勤の開始
- ★ 9～10月 : 年間パートナーと受け持ち患者支援、個人目標面談

新人看護師バッジ



- 院内留学 -

目的 留学部署での看護実践を経験することで、自己の看護に対する考えを深め、今後の看護に繋げることができる。

対象者 2年目看護師

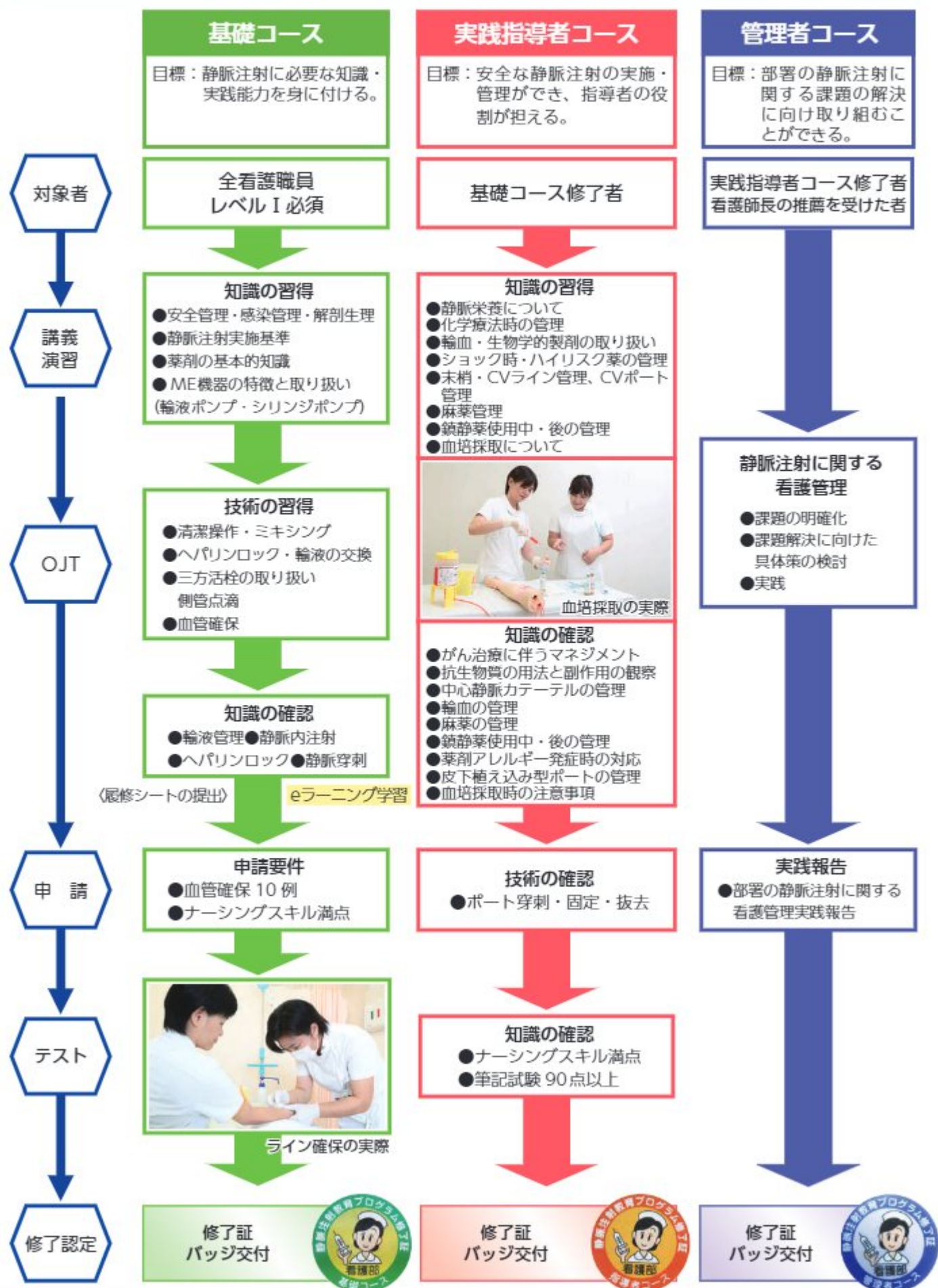
時期 9月～12月(4カ月)

研修期間 5日間

- 高齢患者の看護 研修プログラム -

目的 高齢者の特徴及び必要なケアについて学び高齢者に対する看護実践能力を育成する(1日研修)

項目	内容	担当講師
高齢者の身体的、精神的特徴	◆高齢者の心身の加齢変化と健康アセスメント ◆高齢者の理解、老齢介護の実際、高齢者の倫理	認知症看護認定看護師
高齢者の身体的機能とフレイル	◆高齢者の身体的機能について ◆フレイル対策としてのリハビリ(予防と改善)	リハビリテーション部医師
高齢者の皮膚の特徴と皮膚トラブルへの対応	◆高齢者の皮膚の特徴、皮膚トラブルの原因と予防対策 ◆スキンケア、トラブル時の具体的ケア	皮膚・排泄ケア認定看護師
高齢者の栄養	◆高齢者の栄養アセスメントと必要なデータについて ◆栄養障害とサルコペニアについて	特定行為研修修了看護師 心臓リハビリテーション指導士
高齢者の摂食嚥下	◆嚥下に関わるメカニズム、高齢者の摂食嚥下障害の特徴 ◆食形態について	摂食・嚥下障害看護認定看護師



院内研修 -レベル I 教育-

BLS

目的 一時救命処置の理解と手技が習得できる。

演習のポイント

- BLS の一連の流れ
- 胸骨圧迫の仕方
- マスク換気方法
- 意識レベルの確認
- AEDの使用方法

胸骨圧迫・人工呼吸は30:2でいきましょう！



効果的な胸骨圧迫は、しっかり押しもどすこと！

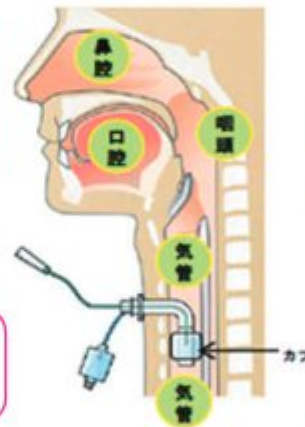
気管内吸引

目的 気管内吸引時に必要な観察を行い正しい方法で気管内吸引ができる。



チューブの挿入長さは？
吸引圧は？
吸引時間は？
痰を上手く取るコツは？

上手く痰が出せないと吸引が必要になります。



講義

- 呼吸の解剖・生理
- 気管内吸引時の看護について

演習のポイント

- 視診・聴診で蓄痰等の観察と早期対応ができる。
- 気管内チューブの管理と吸引の手技を獲得する。

エンゼルケア

目的 患者さん・ご家族に対する死亡時のケアの意義を理解し実践できる。
(ご家族への配慮、シャワー浴、更衣、エンゼルメイク)

お顔をきれいにしましょう。



顔のマッサージ

お着替えしてお家に帰る準備をしましょう。



更衣の実際

演習のポイント

- 自己の体験の共有 (グループワーク)

<ケアの実際>

顔のマッサージ

シャワー浴

更衣

- ・ネクタイの結び方
- ・エンゼルメイク

院内研修 –レベルⅡ教育–

フィジカルアセスメント

目的 フィジカルアセスメントに必要な知識・技術を獲得し、緊急性及び重症度の判断ができる。フィジカルアセスメントに基づいた看護展開ができる。



知識の習得

(eラーニング学習・テスト)

- 正常呼吸音・心音
- 異常呼吸音・心音

技術の習得

(シミュレーター活用)

- 問診・視診・触診
- 打診・聴診

事例で学ぶ

(シミュレーション)

- 肺炎、心不全、イレウス、DVTの事例を通して、臨床推論から臨床判断し看護につなげる。

看護診断

目的 臨床判断に基づく看護過程の展開ができる。

看護診断スキルアップ研修

(初級から上級まで段階を経て修了する)

看護診断指導者育成研修

育成研修

初級コース (6時間)
 目標：看護診断の意味・意義・活用を理解する

中級コース (6時間)
 目標：アセスメントと診断プロセスを身につける
 看護診断に必要な知識を身につける

上級コース (6時間)
 目標：看護診断の指導・活用に自信をつける

事例検討会 (院内)
 目標：患者の基礎情報から臨床判断し、看護診断を活用した個別性のある看護をまとめる力を鍛える

エキスパートナース育成研修
 目標：看護診断に対する助言・指導ができる

先輩ナースからのエール



8階東病棟 日高 未唯 (2023年入職)

私は、新人看護師として脳神経外科・眼科病棟に勤務しています。初めの頃は、病棟の雰囲気や業務に慣れることで精一杯でした。しかし、新人教育サポーターや先輩方が温かく指導して下さり、今はできることも増え、患者にも少しずつ自信をもって看護を提供できるようになりました。自分の思いを伝えることができない患者が多くいる病棟ですが、毎日の関わりや患者の生活背景から何を伝えようとしているのか読み取ろうと意識しています。

これからも、患者ひとり一人と向き合いながら頑張っていきたいです。



重症集中治療部 中田 早紀 (2023年入職)

私は新人看護師として集中治療部で勤務しています。初めは分からないことばかりで不安でしたが、知識豊富な先輩方の手厚い指導のおかげで少しずつできることが増えてきています。今は、患者の変化に気づき、何が起きているのかをアセスメントでき、看護に繋がった時にやりがいを感じています。重症患者を担当することの責任の重さは日々感じています。困ったことや分からないことはすぐに新人教育サポーターや先輩方に相談できるため安心して働くことができています。これからも先輩方と一緒に患者に安心安全な看護を提供していきたいです。



5階東病棟 平良 晴香 (2022年入職)

私は、精神科神経科病棟に勤務し2年目になります。1年目の頃は、看護技術や患者さんとの関り方も全てが初めてのことで、目の前のことをこなすのに必死だったことを覚えています。また、精神科の患者さんはじっくりと関わる必要のある方や、看護師が関わることで依存的になり退行につながる方もいるため、距離感がとても難しいと今も感じています。患者さんの関わり方に困る時は、先輩方の関りから学びつつ、自分にできる関わり方を日々模索しながら実践しています。先輩方は、些細なことでも相談しやすく、それぞれの看護観に沿って多方面から助言して下さいます。そのような先輩方の中で私も自分なりの看護を見つけていきたいと思ひます。



7階東病棟 嘉数 輝士 (2022年入職)

私は胸部・心臓血管外科病棟で勤務しています。1年目の頃は業務をこなすことが精一杯でした。忙しい業務の中でも傾聴や患者さんの状態についてアセスメントを行い適切な看護ケアを提供している周りの先輩たちの姿をみて、目標にできました。また、先輩たちが手厚いサポート・指導してくれたので、安心して看護を実践ができました。2年目になりまだまだ未熟さを感じますが、立ち止まってフィジカルアセスメントを行うことや患者さんの話を聞くことが少しずつできるようになり、自分自身の成長を感じています。これからも素晴らしい先輩や看護師長のもとで自分自身が成長していけるよう日々精進していきたいと思います。



救急部 平良 勝美 (1996年入職 特定行為研修修了看護師)

2021年の救急病棟勤務6年目の時に、当院の特定行為研修に救急領域パッケージが新規で追加され、知識を深めたいと思ったことがきっかけで特定行為研修を希望しました。特定行為研修を修了し思うことは、より深い専門的知識と技術を身につけたことで、提供できるケアが増え患者さんに貢献できているということです。

特定行為の実践には、実践後の患者の状態をスタッフや医師による継続的な観察等の支援があるからこそ実施できていると日々感じており、感謝の気持ち一杯です。今後は、人工呼吸器関連の特定行為の実践にも力を入れ、早期離脱による安楽提供に取り組んでいきたいと考えています。

働き続けられる職場環境



看護部管理室 外間 太樹
(2008年入職 集中ケア認定看護師・特定行為研修修了看護師)

私は呼吸器・消化器・感染症内科病棟とICUで経験を積み、重症な患者さんに対するケアを充実させたいという思いから、集中ケア認定看護師資格の取得と特定行為4区分9行為を習得しました。現在は看護部管理室で勤務し、呼吸ケアサポートチームや院内急変対応チームにも所属し、特定行為の実践、重症患者のケア支援、スタッフへのOJT指導に取り組んでいます。

教育担当副師長として、新人看護師が知識・技術を身につけ、大学病院の看護師として安心して働けるよう支援しています。新人看護師や後輩看護師の成長に、私も喜びとやりがいを感じています。

2025年1月に開院する新たな琉球大学病院で、共に成長できる仲間たちと一緒に看護師のキャリアを築いてみませんか。皆さまと一緒に働くことを楽しみにしております。



外来 平良 真紀子 (2001年入職 造血幹細胞移植コーディネーター)

私は琉球大学病院へ入職後、3人の子供が誕生し、仕事と子育ての両立に悩まされながらも、職場の上司の理解や家族に支えられながら22年目を迎える事ができました。現在は造血幹細胞の移植コーディネーターとして、小児から成人までの全ての造血幹細胞移植に関わらせて頂いています。

造血幹細胞移植は移植が実施されるまでには、患者・家族を中心に多くの院内外関係者（骨髄バンク・臍帯血バンク等）の協力があって成り立つチーム医療です。私は移植コーディネーターとして、多職種との連携や移植を控え不安な心に寄り添い、信頼できる窓口となるよう日々努力を重ねています。このような環境で働けるチャンスを貰えるのは、琉球大学病院が高度先進医療を担う病院だからです。様々な領域での活動も多く、とても魅力的な職場です。皆様と一緒に働く日を楽しみにしています！



9階東病棟 知念 さゆり (2009年入職 認知症看護認定看護師)

私が認知症看護認定看護師の資格を取ってから5年が経ちました。その間に、双子を出産し、育児休暇、育児短時間勤務も経て、2023年度から副看護師長の役割も担っております。今は夫と協力しながら、夜勤もしています。育児と認定看護師・副看護師長業務の両立は慌ただしく大変ですが、勤務調整など看護師長や病棟メンバーの協力もあって、充実した日々を送っています。

看護師になって14年が経ちましたが、入院する高齢の方、認知症の方は年々増えています。認知症看護は1人では難しいですが、病棟でいろんな職種と協力し、悩みながらも楽しく、より良い対応を考えています。



周産母子センター 城間 洋乃 (2008年入職 看護診断エキスパートナース)

私は約10年、看護診断エキスパートナースとして活動しています。当初は苦手としていましたが、看護診断事例検討会や、他部署での看護診断カンファレンス参加等の活動をしていくうちに「看護の力」を発揮するためには看護診断は重要であると実感しています。

普段、患者さんをケアする中で、医学診断つまり疾患に注力したケアをしてしまうことが多々あります。しかし、看護診断は疾患のみに着目するのではなく「ひとりの人」として、患者さんを捉えることを大切にしています。疾患による身体的症状のみならず、精神面やこれまで過ごしてきた背景、性格、家族関係、仕事など様々な視点から全人的に捉え、アセスメントし看護診断します。今、患者さんが困っている、必要としていることは何か、それをどの様に「看護の力」で解決に導けるかを考え、診断・計画・実践することが私たちに求められている看護ケアだと思います。看護診断というと苦手意識を持たれる方も多くいると思いますが、ぜひ看護診断エキスパートナースを活用して頂き、私達も皆さんと共に成長できたらと思います。

部署紹介



人工呼吸器管理

10階 東病棟

ベッド数：42床
(感染症病床：6床、結核病床：4床を含む)

第一内科：呼吸器・消化器・感染内科

呼吸器疾患では、酸素療法・呼吸器管理を要する患者が多いため、質の高い呼吸器ケアの提供に取り組んでいます。

肝疾患においては、肝炎コーディネーターの資格をもつ看護師が医師、栄養士、薬剤師と協働で「肝炎教室」を開催し、肝炎予防や治療の啓蒙活動に繋がっています。また、日本エイズ学会認定看護師を中心に多職種カンファレンスや、症例報告会に参加し、エイズ治療・看護の質向上に取り組んでいます。



ウロストミーケアの指導

10階 西病棟

ベッド数：47床

腎泌尿器外科、皮膚科、第一内科

腎泌尿器外科・皮膚科ともががん疾患の患者が多く、周術期から終末期まで様々な病期の看護を提供しています。

腎泌尿器外科では腎移植看護やウロストミーケア、排尿自立に向けた指導を中心に実践しています。また、皮膚科では難治性の皮膚疾患を抱えた患者さんのスキンケアに加え、感染予防や疼痛緩和に力を入れています。



心臓リハビリ指導士による退院に向けてのリハビリ風景

9階 東病棟

ベッド数：48床

第三内科：循環器・腎臓高血圧・神経内科

急性期、慢性期の循環器・腎臓高血圧・神経疾患患者さんの早期回復をめざし、多職種や地域との連携を大切にしています。心疾患においては心臓リハビリチームと連携し、多職種で慢性心不全カンファレンスを充実させ、早期回復に繋がっています。また、腎不全患者に対しては血液浄化療法部と協働しチームで腹膜透析、維持透析時の意思決定支援に力を入れています。非がん患者さんの緩和ケアや高齢者看護など看護実践力の向上に取り組んでいます。



インスリン自己注射指導

9階 西病棟

ベッド数：48床

第二内科：内分泌・血液内科

糖尿病療養指導士を中心に患者・家族を対象とした生活習慣予防教室を開催しています。個別指導として糖尿病療養指導カードを用い、患者の生活スタイルにあった指導を行い在宅療養が継続できるように取り組んでいます。また、造血幹細胞移植推進拠点病院となり、患者さんが安心して治療を受けられるようにサポートしています。



摂食嚥下機能障害の患者へのリハビリ

8階 東病棟 ベッド数：48床

脳神経外科、眼科

脳神経外科では、理学・作業療法士、言語聴覚療法士と連携し、運動機能や摂食嚥下機能の維持・回復に向けてリハビリを強化しています。患者さん個々に合わせた食事を提供できるように栄養士との連携も強化しています。

眼科では、外来・病棟看護師が連携を図り、患者さんが安心して治療に臨めるよう外来からクリニカルパスを活用しています。入院前、入院中、退院後も継続して患者指導などの看護を行っています。



口腔内状態にあわせたケアの提供

8階 西病棟 ベッド数：48床

耳鼻咽喉科、歯科口腔外科、形成外科

当病院の主な疾患は、頭頸部の悪性疾患、口腔内腫瘍、慢性中耳炎などです。手術や放射線・化学療法を受ける患者さんが多く、専門的なケアを実施しています。特に、口腔内のアセスメントとケアに力を入れています。また、NSTチーム、緩和ケアチームなど多職種と連携し、患者さんのQOLの維持・向上に向けた支援に取り組んでいます。



状態観察しながらの術後早期リハビリ

7階 東病棟 ベッド数：48床

第二外科：胸部・心臓血管外科

病棟では高侵襲の手術が多く、合併症予防・早期回復のための全身観察や術後早期からのリハビリ、生活背景に即した退院指導等を、多職種を含めたチームが一丸となって取り組んでいます。また、患者誤認や転倒予防への取り組みや、認知症・せん妄予防ケアにも力を入れ、安全で安心な療養生活が過ごされるよう支援しています。



認定看護師とのベッドサイド褥瘡カンファレンス

7階 西病棟 ベッド数：48床

第一外科：消化器外科・内分泌外科、麻酔科

周術期治療、がん治療、生体肝移植などの高度先進医療を行っています。患者さんの背景を捉え、患者さんの力を引き出すために、「みて、触れて、考える」ことを大切に、医療・看護を提供しています。早期回復を目指し、合併症予防のためリハビリにも力をいれています。また、多職種で連携し、がん化学療法、褥瘡・皮膚創傷ケア、人工肛門ケア、退院支援などを強化しています。

部署紹介



体幹装具の装着方法の指導

6階 東病棟 ベッド数：48床

整形外科

筋骨格系疾患の患者さんを対象に各年齢層の身体的特徴、心理面を捉えた看護を提供しています。術後は合併症予防に努め、早期離床と患者さんの状態に併せた日常生活の援助・指導を行っており、医師・理学療法士・作業療法士・栄養士・薬剤師など多職種カンファレンスで情報を共有・連携しながら患者さんを支援しています。



プレパレーションを用いた患児への説明

6階 西病棟 ベッド数：38床

小児科

当小児科は、沖縄県内唯一子どもの造血幹細胞移植を行っています。多職種チームによる移植後患者のQOL向上を目指した、フォローアップ外来を開設し活動しています。

小児看護では、幅広い年齢層の発達段階に応じた対応が求められていることから、幼児期・学童期の子どもたちにはプレパレーションを行い、入院・処置に対する不安軽減に努めています。また、季節毎のレクリエーションを開催し、長期入院の子ども達にも季節を感じてもらい、リフレッシュできるように頑張っています。



摂食障害者への退院支援
(ミールセッション)

5階 東病棟 ベッド数：40床

精神科神経科

精神科神経科病棟では、身体合併症や手術を要する患者、妊産婦、児童思春期の疾患など、急性期の治療が必要な患者を積極的に受け入れ、看護ケアを実践しています。

リエゾンチームでは、一般科の身体疾患治療中に起こる患者の心理的問題に介入し、心のケアと医療者の支援を行っています。また、医師・看護師・精神保健福祉士で退院前自宅訪問の実施、地域の関連機関とのカンファレンスを行い、退院支援に取り組んでいます。



リンパ浮腫指導

4階 東病棟 ベッド数：31床

婦人科

婦人科の手術・薬物療法・放射線療法前に患者指導を行い、副作用症状の予防や早期対応に努めています。また、下肢リンパ浮腫に対するリンパマッサージや排尿自立支援に力を入れています。2020年5月に外来プール制を導入し継続看護の強化を図っています。チーム医療を推進し広い視点で個別性に応じた患者支援に繋がっています。



放射線・抗がん剤併用療法の副作用ケアの説明

1階 西病棟 ベッド数：20床

放射線科、耳鼻咽喉科、腎泌尿器外科

放射線検査、治療部門における医療・看護を安心・安全に配慮して提供しています。どの部門においても急変時・緊急時の対応が出来る人材育成、シミュレーション教育にも力を入れています。また、病棟においては放射線療法、分子標的薬物療法、動注療法や塞栓療法等を受ける患者さんの副作用ケアに力を入れています。

更に、治療部門では、がん放射線看護認定看護師を専従配置し、全人的な看護を掲げ、患者さんの不安の軽減、放射線皮膚炎等の症状緩和に向けた、スキンケア指導を強化してセルフケアをサポートしています。



退院直前の GCU 患児のケア

4階 周産母子センター ベッド数：32床
(産科 20床・NICU 6床・GCU 6床)

産科・NICU・GCU

地域周産期母子医療センターとして地域と連携し、ハイリスク妊産婦に対して妊娠初期から、出産後1か月まで、育児遂行能力の向上に繋がるよう保健指導を充実させています。

NICU・GCUでは、重症患児や低出生体重児への重症ケアに対応しながら、カンガルーケアを通して母子の愛着形成に繋がるようケアを提供しています。



ICU ベッドサイドリハビリ

4階 ベッド数：8床

集中治療部

集中治療部は高度で専門的な治療や看護を必要とする患者さんが入室する病棟です。医師、看護師、理学療法士、臨床工学技士などでカンファレンスを行い、治療・処置・リハビリなどについて検討し看護ケアに活かしています。また、急性期リハビリ・せん妄予防ケア・栄養・口腔機能評価に取り組み、合併症予防に努めています。



最先端手術における直接介助

4階 ベッド数：11床

手術部

周術期の術中を中心とした安心・安全な看護を提供しています。手術に特化した知識や技術が必要とされ、進歩する医療技術に対応できるよう日々自己研鑽し専門性を高めています。

ロボット支援術や、ハイブリット手術、生体肝移植術など、最先端の高難度手術を安心・安全に提供できるようにコメディカルと協働しています。

術中体位による皮膚損傷予防ケア等に力を入れ、術後の患者の安楽に繋がるよう努めています。

部署紹介



模型を使ったインスリン自己注射の指導

1～3階 診療科：21科

外来

患者の満足度とQOLの向上をめざし、接遇強化や患者誤認防止対策を継続しています。患者が安心して入院し退院後の生活も不安なく送れるように病棟と情報共有の強化に取り組んでいます。また、専門分野の資格者を活用し、専門・認定看護師と連携を図っています。外来化学療法室や糖尿病療養指導、皮膚・排泄ケア、がん看護外来、HIV療養指導、造血幹細胞移植後外来など多岐にわたり活動しています。



洗浄後の機材の拡大鏡を使った目視点検

3階

材料部

材料部では医療材料の物流管理と、医療機器の洗浄・滅菌業務を行っています。洗浄・滅菌には専門的な知識と技術が必要であり、第一種滅菌技師、第二種滅菌技士資格取得者により、目視点検や洗浄評価、滅菌の質保証体制の整備を行っています。患者さんに安心・安全な医療器材を提供するために品質管理の向上を図っています。



心肺停止患者受け入れ時の対応シミュレーション

2階 外来ベッド数：6床 HCU：6床

救急部

救急外来は1次から3次までの救急患者を24時間体制で受け入れています。また、院内トリアージにより、緊急度、重症度を見極め、初療から治療までチームで取り組んでいます。

HCUでは、小児から高齢者まで各科の重症患者を受け入れています。クリティカルケア看護が安全に提供できるよう、知識・技術の向上に努め、医師、理学療法士、臨床工学技士等の多職種と協働し、チーム医療の推進に取り組んでいます。



血液透析中の多職種による安全確認

2階 ベッド数：20科

血液浄化療法部

急性から慢性腎不全の血液透析を初め、腹膜透析外来、腎代替療法外来、アフェリシス（血液から特定の成分や細胞を分離・除去する治療法）など、多種多様な療法に対応しています。

多職種と協働し、重症患者の循環管理、感染管理などに取り組み、安全な透析医療を提供するため医師・看護師・臨床工学技士・管理栄養士が各々の専門性を発揮しチーム医療の推進を図っています。



入院や退院支援に向けての相談

2階

医療福祉支援センター

医療福祉支援センターには、医師や看護師・ソーシャルワーカー・事務職などが協働して患者さんの社会的・経済的問題や医療・看護等に関わる様々な不安や心配事の相談に応じています。入院準備室や退院調整部門では、入院が決定した時点から安心して入院生活が送れるよう入院前から退院を見据えた問題点を抽出し、多職種と連携し、地域の医療機関や関連施設への転院、訪問看護ステーションなどと連携し在宅療養支援に繋がっています。



気管内吸引のタスクトレーニング

別館

おきなわクリニカルシミュレーションセンター (ちゅらsim)

病院敷地内に隣接したおきなわクリニカルシミュレーションセンターで臨床と同じ環境下において、何度でも繰り返しトレーニングすることで看護技術が習得できる施設です。静脈注射の個人練習やテストを実施し、技術評価を行っています。院内ICLS(急変トレーニング)を実施し、少人数のグループできめ細かな指導を行っています。



検査・治療前のタイムアウトの実践

4階

ベッド数：4室 (透視室1室)

光学医療診療部 (内視鏡室)

光学診療部では、内視鏡を使用して上部・下部内視鏡・小腸内視鏡・気管支鏡・カプセル内視鏡・逆行性膵胆管造影検査・治療などを専門に行っています。

安全・安楽に内視鏡検査・治療を行うため、外来や病棟と連携し、検査前から患者さんに寄り添いながら、不安の軽減に努めています。チーム医療として安全に検査・治療を実践するため医師、看護師、臨床工学技士などのコメディカルと協働し取り組んでいます。また、看護師も内視鏡技術士の資格を取得し専門性を高めています。

琉球大学職員宿舎

宿舎への入居希望者には、琉球大学職員宿舎をご案内しています。部屋の広さは3種類 (b < c < d) で、基本的に入居者数を目安に、状況に応じて割り当てています。

bタイプ	cタイプ	dタイプ
(3K:48.91㎡)	(3DK:64.24㎡)	(3LDK:71.87㎡)
1~2名	2~4名	4名以上

職員宿舎は、下記の3箇所となっています。

- ①志真志宿舎：宜野湾市志真志 ・ bタイプ ・ cタイプ
- ②前田宿舎：浦添市前田 ・ cタイプ
- ③石嶺宿舎：那覇市首里石嶺町 ・ bタイプ ・ cタイプ ・ dタイプ

※空室状況は、常に変動するため状況によっては、ご希望のタイプのルームに添えないことがあります。

※駐車場使用料は別途料金となります。

※駐車場は、各宿舎にありますが、空き状況については要確認となります。



アクセスマップ



モノレール [空港から]

モノレール ●所要時間：約25分	備保駅	路線バス (那覇バス) 97 ●所要時間：約30分	琉球大学病院
モノレール ●所要時間：約27分	首里駅	タクシー ●所要時間：約15分	
モノレール ●所要時間：約37分	ただこ浦西駅	タクシー ●所要時間：約10分	

タクシー [那覇空港から]

所要時間：約35分
 路線：●空港→沖縄自動車道→**琉球大学病院**
 ●空港→那覇うみそらトンネル→国道330号→**琉球大学病院**

バス [那覇バスターミナルから]

路線バス (20~30分に1本)
97 番線 (琉大線) 那覇バス株式会社
 所要時間：約50分
 乗り場：市外線バスターミナル (那覇市泉崎)
 路線：バスターミナル (泉崎) → 国際通り (牧志) → 備保 (首里) → **琉球大学病院**

看護部ホームページ

琉球大学病院 看護部

看護師募集については、ホームページの採用情報をご覧ください。
 採用試験、インターンシップ、施設見学、先輩との交流会情報についても、随時ホームページにアップします。



〒903-0215 沖縄県中頭郡西原町字上原207番地

TEL. 098-895-3331

URL <http://www.hosp.u-ryukyu.ac.jp>